

Sankka

讃歌
夏号

京都九条病院 Communication Book

◎特集① 副院長・脳神経外科主任部長
に聞きました。

地域の方々が
安心して暮らしていける
医療サービスを
目指しています。

◎特集② 関節スポーツ整形外科部長に聞きました。

K・S・M・A・R・Tは、アスリートをメディカル面から
サポート、マネージメントしています。

◎Lifestyle ショーン広場

- 健康は毎日の食事から「医食同源」講座(第19講目)
- 暮らしの中で病気予防「健康ライフ」講座(第27講目)
- ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ(第34弾)
- 私の病院自慢あれこれ(第34回)
- ◎院内散策
- 糖尿病教室
- 平成26年度脳卒中市民講習会



院長 山本 季水



副院長・
脳神経外科主任部長 榊原 毅彦

vol.34
2014 Summer
夏号

地域の方々が

安心して暮らしていける

医療サービスを

目指しています。



京都九条病院
副院長・脳神経外科主任部長

榊原 毅彦

Takehiko Sakakibara

地域連携を推進し、
地域の中核の病院としての役割を
しっかり担っていきます。

京都九条病院は、地域密着型の病院として地域住民の皆さんに安心して暮らしていただけるよう、患者さんのニーズに対応した医療サービスを提供してきました。副院長としてこの病院の指針を受け継ぎ、急性期を担う地域の中核病院としての役割をし

つかり果たすとともに、地域の医師会、開業医の先生方の信頼獲得に努め、医療連携の強化を図っていきたくと思っています。また、よりよい医療サービスを提供するために、病院スタッフが働きやすい環境作りを推進していきます。

脳卒中患者さんの回復を早めるために、
最新の方法でリハビリを行っています。

当院では脳卒中センターを中心に、365日24時間体制で脳卒中や頭部外傷の急性期治療に取り組んでいます。また、京都府が導入した脳卒中地域連携パス（急性期の病院から回復期の病院、地域の開業医まで診療情報が統一された形で繋がっていくシステム）を推進し、急性期から亜急性期、慢性期（外来）まで時間的に

も途切れることのない包括的で継続的なケアを提供しています。急性期からスムーズに回復期に繋げていく、施設での生活など次の段階に繋げていくためには、回復を早めるリハビリが重要です。ところが、脳卒中を発症した後、手や脚が痙縮（無意識に筋肉に力が入ってしまう状態）を起したり、関節が固まってしまうこ

とがあり、こうした症状が出る
とリハビリの障害になるほか、日常生活にも支障をきたしてしま
います。そうした症状を緩和す
るために、当院では「ボトックス療
法」を取り入れました。

ボトックス療法は、手や脚が痙縮したり、関節の拘縮してしまっ
た患者さんにボツリヌス菌によっ
て生産されるボトックス薬を投
与し、筋肉を柔らかくするとい
う療法です。リハビリが行いやす
くなることで回復の促進が期待
されます。

また、回復を早めるためには食
事も大切ですが、脳卒中発症後、
嚥下障害つまり飲み込む能力に
障害を負ってしまう人も多くお
られます。嚥下障害があるとこ
飯が食べられないし、食べてもす
ぐ誤嚥性肺炎（水や食べ物など
が誤嚥によって肺に入ってしまう）、
肺に細菌が繁殖して起きる炎症
（症）を起こしてしまいます。そこ
で、言語療法士と協力して内視
鏡で嚥下の動きを調べる嚥下検
査を行い、嚥下障害の治療を進
めるとともに、胃瘻（直接胃に栄
養を入れる栄養投与方法）を行
う患者さんを減らしていきたい
と考えています。

OUR HOSPITAL CONCEPT

京都九条病院の基本理念

良質な医療を安定的に提供します。
さらに常に最大限最高の医療の提供を目指す
前向きな姿勢を持ち続けます。

OUR HOSPITAL POLICY

京都九条病院の基本方針

- ① 医療は患者さまとご家族と医療者が協同して行うものと考えます。
- ② 「奉仕の精神」を持ち、親切な対応、サービスの向上を心がけます。
- ③ 公平・公正で良質な地域医療を、安定的に提供し続けます。
- ④ 急性期医療に24時間対応し、専門性の高い高度医療を充実させます。
- ⑤ 治療に関する情報はすべて患者さまに開示し、分かり易く説明します。
- ⑥ 最先端の予防医学・健診技術を用い、「地域の人々の健康」に貢献します。
- ⑦ 地域支援の中核として活動し、トータルヘルスクエアを進めます。
- ⑧ 各種研修指定施設として、高い技能を持つ人材を育成します。

「患者の権利」に関する宣言

京都九条病院では、患者さまの個人としての尊厳が守られ、より良い信頼関係の深まりとともに安心して医療が受けられるように、患者さまの権利に関する宣言を掲げます。

- ① 患者さまは、その社会的経済的地位・国籍・人種・宗教・年齢・性別・病気の種類によって差別されることなく、平等な治療を受ける権利を持っています。
- ② 患者さまは、自由に医療機関を選ぶ権利を持っています。
- ③ 患者さまは、十分な説明を受けた上で、治療を受ける権利あるいは治療を受けることを拒否する権利を持っています。
- ④ 患者さまは、医療のどの段階においても別の医師の意見を求める権利を持っています。
- ⑤ 患者さまは、医師ならびに医療従事者が患者さまについて知り得たすべての医療上の情報及び個人的情報が保護される権利を持っています。
- ⑥ 患者さまは、いかなる状態にあってもその人格を尊重され、また尊厳をもってその人生を全うする権利を持っています。

私達京都九条病院職員は、患者さまの権利を尊重し、十分な相互理解をもって、患者さまが最善の治療を受けられるよう最大限努力をします。私達京都九条病院職員は、良質な医療を提供し続けるために、常に前向きに努力することを誓います。

◎急性硬膜下血腫



◎武道による受身のリスク



▶正しい受身
前後方向の回転加速度を最小限に抑え、脳と硬膜のずれを防止する

▶不十分な受身
前後方向の回転加速度が緩衝できず、脳と硬膜のずれが起り、脳幹部が切れる

脳神経外傷に関する正しい知識の普及、
予防に努めています。

私たちの専門でもある脳神経外傷の治療はもちろんのこと予防も重要な課題の一つです。脳神経外傷には、急性硬膜下血腫、急性硬膜外血腫、脳しんとう、脳挫傷、脳内血腫、びまん性軸索損傷、慢性硬膜下血腫、頭蓋骨折などがありますが、いま問題になっているのはスポーツ中に起きる脳しんとう、急性硬膜下血腫などの頭部外傷です。脳しんとうを軽く考えてはいけません。しばらく休んで気分がよくなったからと不用意に練習や

試合に復帰して再び頭部にダメージを受けると、脳に重篤な障害が残ったり、ときには命を落とす場合もあるのです。平成24年度から中学校で武道（柔道、剣道、相撲）の授業が必修となりましたが、日本ではスポーツ指導者や体育の教員で医学的な知識を持っている方が少なく、脳神経外傷の増加が危惧されています。

今後このような機会を大事にすることで、広く一般の方々にも頭部外傷の知識を普及し、予防に努めていきたいと考えています。9月には、一般社団法人日本核磁気共鳴学会の依頼により、学会付帯の市民講習会でスポーツ頭部外傷についてのお話をさせていただきます。

のうち頭部外傷によるものが70件と大半を占めています。厚生労働省も診療指針ガイドラインを作成し、そういった事故を予防するようなシステム作りを進めています。日本脳神経外傷学会の幹事を務める者として学会全体で頭部外傷の予防に取り組む必要性を感じています。

京都スポーツ医学リハビリテーションチーム

K・S・M・A・R・Tは、

アスリートをメディカル面から

サポート、マネージメント

しています。

定期的な
メディカルチェックで、
自分の身体を
正しく知ることが大切。

京都九条病院は、スポーツ選手や愛好家、スポーツチームなどの医学的サポートを目的として、ケガの予防から治療後の復帰までをマネージメントするK・S・M・A・R・T（スポーツ医療チーム）を組織し、昨年から活動を開始しました。現在のところ、高校バレーボール部、高校ハンドボール部、高校陸上部、大学ハンドボール部、アーチェリー団体などの契約チームのメディカルチェック活動を行っています。また、最近ではバレーボールVリーグ、



さまざまな練習場に向き、身体チェックからトレーニングに対する注意点などを詳しく説明。



K-SMART

医療各職種の中からスポーツに関するエキスパートを集めて構成したスポーツ医療チーム。

女子プロ野球、女子プロサッカーなどのプロ選手達の利用も徐々に増えています。

具体的には、毎月練習場にトレーナーを派遣し、選手の状態をチェックして、もしどこか傷めているような選手がいたらすぐに医師に連絡し、ただちに診察・治療をします。また、K・S・M・A・R・Tスタッフ（医師・理学療法士等）が年2回メディカルチェックに向かい、選手の身体の状態を評価しデータ化するのと同時に、ケガをしないように予防・運動指導を行っています。アスリートを対象としたメディカルチェックとは、医師や理学療法士、トレーナーなど身体管理のスペシャリストによって行われる健康診断のことです。日常生活リズムや食事・睡眠の聴取にはじまり、過去に傷めた部位やその治療歴、スポーツ歴などを調査すると同時に、実際に身体の柔軟性や関節可動域、筋力などを評価し、その場で解決策を考えます。また、それらをデータとして蓄積し、次のチェック時に活用します。

メディカルチェックを行うと、自分の身体についてよく理解していないアスリートが多いことに驚きます。「自分は筋肉質だ」という方の身体を測定してみるとあま



JTマーヴェラスの井上琴絵選手と松井理事長。



トレーナーによるトレーニング指導。

り筋肉がなかったり、「自分は身体が柔らかい」と言う方でも柔軟性が低いという評価が出たりすることがあります。まず身体についてよく知り、改善点を把握したうえで正しいトレーニングを行うことが大切です。そうしたことを知らないままトレーニングやプレーを行っている、無理をして筋肉を傷めたりケガをしたりと逆効果になるからです。

さらにこのメディカルチェックで身体の柔軟性がない、筋力が不足しているといった評価が出た場合は、その場でトレーナーや療法士が改善法をアドバイスし、トレーニング指導を行います。とくに若いアスリートの場合、適切なアドバイス、正しいトレーニング指導を受けなければ、問題はすぐにでも改善されます。実際、正しいジャンプの仕方を指導しただけで、本人も驚くほどジャンプ力がアップしたということもありました。

プロ、アマ問わず、
メディカルスタッフの
サポートが有効です。

K・S・M・A・R・Tは、アスリートがケガをしないように考え、それぞれの力を伸ばせるようサポートすることを活動のコンセプトとしています。メディカルスタッフのサポートを受けるのはプロをはじめとしたハイレベルのアスリートという考えが多いのが現状です。しかし科学的根拠に基づいた知識と技術を提供することは、プロ、アマチュアを問わず必要です。ケガをしない身体を作っていくためには、できるだけ早い段階でメディカルスタッフによるサポートを受けることが望ましいと考えています。大人やシニアはもちろん、小学生や中学生など成長期の子ともたちが間違った身体の使い方をしてしまう

が改善法をアドバイスし、トレーニング指導を行います。とくに若いアスリートの場合、適切なアドバイス、正しいトレーニング指導を受けなければ、問題はすぐにでも改善されます。実際、正しいジャンプの仕方を指導しただけで、本人も驚くほどジャンプ力がアップしたということもありました。



京都九条病院
国際スポーツ整形外科医

四本 忠彦

Tadahiko Yotsumoto

と、将来アスリート生命を絶たれてしまおうといったことにもなりかねません。そういう意味では低学年ほど正しい知識、正しいアドバースが必要だと考えています。

また、不幸にもケガをしてしまった場合でも、私たちスポーツ専門スタッフがすばやく対応すること、早期の復帰を目指すことができると考えます。専門職との繋がりがないと、ケガをした場合とどこでどのように治療してよいか分からないことが多く、復帰が遅れたり、最悪の場合には競技を続けられなくなったりといったこともあり得ます。特に指導者・保護者の方々には、ぜひメディカルスタッフによるサポートの大切さをご理解いただき、私たちK・S・M・A・R・Tを活用していただきたいと思います。

スポーツ栄養、薬物についての知識を広げています。

K・S・M・A・R・Tは、アスリートの身体を作る日々の食事や環境の整備についての知識を広めようと、「スポーツ栄養教室」を開いています。これまでマスターズアスリートや小中学生・保護者など対象を変えて開催してきました。この教室では、経験豊富なスポーツ栄養士の先生にご協力いただき、スポーツ栄養について参加者と対話しながら分かりやすく勉強をしています。

殆どの方はスポーツ栄養についての基礎知識がなく、アスリートのための食事と一般の食事は違うという認識がないことが多いです。また、メディアなどから得た誤った認識を持つ方もいます。とくに成長段階にある小・中学生は、親が出してくれる食事を食べるのですから、保護者の方に知識を持ってもらうことが重要です。大人になつたときアスリートとして必要な機能が備わっていない身体になってしまうことがあるからです。

今後は薬物についての教室も開いていきたいと考えています。いま、



スポーツ栄養士の先生より、スポーツ栄養から日頃の食事に至るまで、参加者の方々とのお話を交えながら講義が行われました。

プロテインなどのサプリメントや栄養ドリンクなどさまざまな栄養補助食品が市販され、そうしたものを積極的に摂取しているアスリートも多いでしょう。しかし、誤った知識で摂取すると、人によっては害になる場合もありますし、含まれている成分を知らなければ、ドーピング違反にもなりかねないのです。

アスリートが活躍するためには食事や環境を含め日常のケアやサポートが大切です。そのためには本人だけでなく、指導者や保護者などの理解や支援が欠かせません。私たちはこれからもメディカルチェックや栄養知識の大切さを関係者の方々に知ってもらえるよう、活動していきたいと思っています。

京都九条病院は
日本看護協会より、
看護職のワークライフ・バランス推進
「カンゴサルス賞」を
受賞いたしました。

平成26年4月30日 青山ダイヤモンドホール(東京・港区)において、第2回「看護職ワークライフバランス(以下WLB)推進 カンゴサルス賞」の授賞式が行われ、京都九条病院が受賞しました。

同賞は、日本看護協会と都道府県看護協会が協働し、看護職が働き続けることができる職場づくりを目指す「看護職のWLB推進ワークショップ事業」に3年間取り組んだ施設と都道府県看護協会に贈られるもので、今回は12府県と72施設の受賞でした。

京都府看護協会の第1回WLB推進ワークショップ事業に京都府内の4施設が参加しました。当院の参加のきっかけは、「職員は現状のWLBをどう思っているのか? いきいきと働いているのだろうか? 改善できることがあるなら、早急に取り組もう!」と思ったからです。地域の中核病院である当院のビジョンは、①患者さんひとりひとりを大切に、地域の中核病院としてトータルヘルスケアを推進する。②職員ひとりひとりを大切に、働きやすい職場づくりをすることです。まず、看護職員全員を対象にWLBインデックス調査を行い、現場の声を可視化することで、課題が明らかになりました。そして、3年間のアクションプランを計画しました。7対1入院基本料の施設基準の取得、保育所の新設、夜勤専従者の導入や短時間正職員の導入、夜勤人数の増員等々に取り組みました。その結果、看護職の人材確保ができ離職率の改善が図れました。WLBが進めば、看護のケアの質が向上し、ひとりひとりの患者さんを大切にできます。これからも、患者さんにとって、何が最善かを考え看護を実践します。



日本看護協会 本木マサ子会長
看護部長 植原麻子
京都府看護協会 長谷川幸子常任理事



WLBナビゲーター
カンゴサルス



FOOD
for **H**EALTH

健康は毎日の食事から「医食同源」講座⑩

講師:京都九条病院 管理栄養士
尾木 敦子
Atsuko Ogi

**猛暑と湿気が高い毎日!
今年も、夏バテには
ご用心ください。**



ズッキーニのツナチーズ焼き
アボカド添え

材料(4人分)

1人分のエネルギー294kcal
蛋白質10.6g、脂肪25.5g、炭水化物7.1g、ビタミンA75μg、
ビタミンB10.08mg、ビタミンB20.17mg、ビタミンB60.3mg、
ビタミンE0.74mg、ビタミンC30mg、ビタミンD1.2mg、
食物繊維3.1g、塩分0.58g

- ズッキーニ…2本(280g)
- オリーブ油…大きじ2・小さじ1(32g)
- まぐろ水煮缶…2缶(160g)
- マヨネーズ…大きじ2(28g)
- プロセスチーズ(モzzarellaチーズ)スライス…2枚(36g)
- アボカド…1ヶ(200g)
- レモン汁…大きじ1(12g)
- オリーブ油…大きじ1(12g)
- ミニトマト…8ヶ(120g)

- ① ズッキーニを1センチの輪切りにする。
- ② フライパンにオリーブ油を入れ、①を両面焼く。
- ③ まぐろ水煮缶にマヨネーズを混ぜる。
- ④ ②の上に③をのせ、プロセスチーズをのせ、ふたをする。(チーズが溶けたら出火上がり)
- ⑤ アボカドの皮をむき、種を取り出して、サイコロ状に切る。(食べやすい大きさに)
- ⑥ ⑤にレモン汁を加え、混ぜ、オリーブ油を混ぜる。(Aの材料)
- ⑦ ミニトマトは、輪切りにする。(飾り用)
- ⑧ ④を皿に置き、⑥と⑦を盛り付けできあがり。

夏バテの原因は、汗をかくことによる体内の水分やミネラル不足、暑さによる食欲低下によっておこる栄養の偏り、清涼飲料水やビールなどの冷たいものの摂りすぎなどが考えられます。

こんな時、夏バテの疲れを効果的に少なくするには、量より質を大事にし、ビタミンやミネラルを多くとるために、バランスのよい食事をすることです。疲れのもととなる乳酸をほとんど消費していくために、ビタミンをたっぷりとりましょう。

◎ズッキーニ
低カロリー、風邪予防や美肌に効果があるビタミンCが豊富。オリーブ油と炒めるとカロテンの吸収率も上がり免疫力もアップします。

◎まぐろフレーク
DHAの含有量は、抜群。コレステロール中性脂肪を減少させるといわれています。また、EPAも豊富。血液サラサラにして、動脈硬化予防があります。

◎チーズ
緑黄色野菜と一緒にとることで、カロテンの吸収率がアップ。抗酸化作用や腸を潤す効果もあり、細胞の活性化や粘膜炎

の保護をするビタミンB2が豊富です。

◎アボカド
コレステロールを減らす働きがあり、ビタミン、ミネラル、食物繊維も豊富で、高血圧の予防に役立ちます。高カロリーなので、体力回復や成長期の栄養補給にも。

◎レモン
疲労回復に効果的で、皮膚の新陳代謝を活発にし、シミ、そばかすの沈着を防ぎます。

◎トマト
疲労回復、食欲回復や体を冷やしの、のどを潤す効果も。用もあるため夏バテ解消にもおすすめです。

NURSING
for **H**EALTH

暮らしの中で病気予防「健康ライフ」講座⑦

京都九条病院
看護部5F病棟

**こまめな水分補給で
脱水症状を
回避しましょう。**

体内の水分が不足しているときの主な症状は、のどが渇く、活気がない、微熱がある、



日本の夏は気温、湿度が高く、大量の汗をかくことで体内の水分を消失します。人の身体約7割は水分で構成されているため、水分が不足すると身体の機能に大きな影響を与え、生命の維持が危うくなる場合があります。毎日適切な水分補給を行ってリスクを回避しましょう。

尿があまり出ない、皮膚の乾燥などがあります。特に高齢の方は体内の水分量が少ないこと、身体の変化に気づきにくくなっていることもあるため、まわりにいる方も気にかけていることが大切です。屋外で仕事をされている方やスポーツをされる方など、発汗量が多い方はその水分補給を心掛けて下さい。



寝る前と起きてすぐにはコップ一杯の水、できれば常温〜温かいお茶などで水分補給することをお勧めします。正しく水分補給を行い、元気にこの夏をのりきりましょう。



FACE
of DOCTOR

ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ

京都九条病院 循環器内科部長
嶋津 孝幸
Takayuki Shimazu



子どもが私の元気の源。
田植え体験をしたり、
工作をしたり、
時間の許す限り
一緒に過ごしています。



いつも一緒に遊びまわっていますが、やっぱり子どもの体力にはかないませんね。

以前、京都九条病院の循環器内科の医師として働いていたのですが、大学での勤務を経て、この4月に再赴任しました。循環器内科ではいつでも患者さんの治療に当たれるよう24時間体制を取っています。具合が悪くなったときは、ためらわず受診してください。

私のエネルギー源は7歳と4歳の2人の娘。毎日、子どもの顔を見て元気をもらっています。もともと朝型の家族で、帰宅したときには既に寝ていることが多いのですが、朝食は必ず一緒に取るようにしています。上の子どもは学校の話や友達の話をよくしてくれるんですよ。

休日は家族で出かけることが多いですね。子どもの好きなキャラクターグッズを買いに行ったり、田植えの体験学習やレゴの工作室に行っ

り。娘たちは工作やお絵かきなど創作的なことをするのが大好きなのですが、私自身はそういうことが昔から少し苦手。でも楽しそうな子供たちと一緒に絵を描いたり工作をしたりしていると、いつのまにか楽しくなってくるから不思議です。子どもと過ごす時間を大切に、時間の許す限り一緒に遊びたいと思っています。

夏休みには、毎年大学時代の同期7人とそれぞれの家族、総勢30名くらいで一泊旅行に行くのが慣例なんです。今年は私が幹事。ヨットに乗ったり泳いだり、子供たちが楽しめる計画を立てながら休みを楽しみにしています。

LOVE
my HOSPITAL
私の病院自慢あれこれ

京都九条病院のいいところ。
こんなところがわたしたちの自慢です。

病院のことが好き!!

好きな言葉
「思いやり」
宇野 有梨江
看護部 4階南棟 保健師



先輩方が丁寧にしっかりと教えてくれることです。実はここに入职したのも、看護学校の実習でこの病院へ来たとき指導して下さった先輩が尊敬できる方だったからなんです。入职して4ヶ月。一人で出来ることも少しずつ増えてきて、患者さんの体を拭いたり服薬の管理などを行っています。患者さんに「ありがとう」と声を掛けられたときは嬉しいですね。もともと母が看護師で、それに憧れて同じ仕事に。先輩や母のように優しい看護師になりたいと思っています。

好きな言葉
「新しい一歩」
植田 仁美
リハビリテーション部
作業療法士



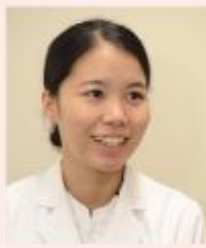
スタッフの育成に力を入れていること。研修の機会がたくさん設けられているし、新人を指導する場合に些細なことであっても見逃さずきちんと改善させることも素晴らしい。身体障害者更生施設勤務を経て、病院の仕事について半年。施設とは違いここは急性期の患者さんが多く、スピード感を持って治療に当たるようにしています。これからも患者さんが新しい生活に踏み出していこうという気持ちになってもらえるようなリハビリを提供していきたいです。

好きな言葉
「無二無三」
佐々木 雅迅
診療情報管理室 課長



何事にも前向きで変革を怖れないところです。組織というのは慣習やこれまでのやり方にこだわって守りの姿勢を取りがちですが、ここは病院をもっとよくするにはどうすればよいかを最優先に改革にも果敢に取り組みますし、よいと判断すれば新しいこともどんどん取り入れるので、スタッフの提案も前向きに検討してもらえます。私が今携わっているのは医療統計を目的としたカルテなどのデータベース作成。このデータベース化も将来を見据えての取り組みなんです。

好きな言葉
「笑顔」
前田 あかね
薬剤部 薬剤師



スタッフの皆さんが優しいことです。新人の私に対してはもちろん、誰に対しても優しいので、チームワークがよく楽しく仕事をしています。もともと医療に関わる仕事がしたいと薬剤師に。学生時代、病棟実習のとき、私たちがまだ学生であるにもかかわらず涙を流しながら身の上話を下さる患者さんに出会い、医療に関わる職業というのはそれくらい信頼される仕事なのだと思えました。もっと知識を増やし、先輩からも患者さんからも頼られる薬剤師になりたいと思っています。

『糖尿病教室』

京都九条病院では、平成24年5月からほぼ毎月「糖尿病教室」を開催してきました。糖尿病についての正しい知識を広め、病気の悪化を防ぐとともに糖尿病を予防していただく目的で開催しているもので、毎回、糖尿病やその予備軍と診断された方、家族に糖尿病患者がおられる方、予防したいと思っ



第14回 糖尿病と足の病氣

「喉の渇きとペットボトルの怖い尻」「あなたの飲んでのお薬の大切なお話」「糖尿病と足の病氣・足に合った靴を履いていますか?」

などさまざま。「教室」では、ただ話を



第15回 糖尿病とお口の関係

加たいだいでいます。これまで取り上げてきたテーマは、「喉の渇きとペットボトルの怖い尻」「あなたの飲んでのお薬の大切なお話」「糖尿病と足の病氣・足に合った靴を履いていますか?」などさまざま。「教室」では、ただ話を

第16回 そうだ、東寺へ行こう!



第17回 おでんを食べてみよう!



平成26年度 『脳卒中市民講習会』

7月12日(土)、京都九条病院1階ロビーにて、「第4回 脳卒中市民講習会」を開催いたしました。

山木院長からのお話に続いて、脳卒中センターの看護師が「脳卒中とは?」と題して、脳卒中は後遺症を残すことが多く寝たきり要因の第一位であることなど、脳卒中の怖さについて説明しました。次に脳卒中になったときの症状例を紹介するDVD「脳卒中が起ったら」を上映して注意を喚起したのち、看護師が予防するための具体的な対策法を紹介。また平井脳卒中センター長から

らは、脳梗塞の急性期治療では45時間以内ならアルテプラゼ(tPA)静注療法といった血栓溶解療法、またそれらと組み合わせた最新のカテーテル治療を行うなど、開頭手術を含む最先端の治療を当院で行っている現状を説明しました。脳卒中センターでは、24時間体制での治療と並行して、これからも地域の方々を対象とした講習会を定期的に開催し、脳卒中の予防に努めていきたいと考えています。少しでも不安を感じたり、疑問があれば当センターにお気軽にご相談ください。



山木院長のお話で脳卒中市民講習会は幕を開けました。



平井脳卒中センター長より現在の最新治療について詳しく説明。

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町10
TEL 075-691-7121(代)

医療法人同仁会(社団)

介護老人保健施設 マムフローラ

〒617-0853 京都市東山区奥海印寺奥ノ院25-2
TEL 075-959-3389(代)

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院

訪問看護ステーション・マム

〒601-8454 京都市南区唐橋羅城門町16
TEL 075-691-3820(代)

京都市唐橋地域包括支援センター 京都市唐橋地域包括支援センター介護予防支援事業所

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町38マム・スクエア内1階
TEL 075-694-6222(代)

医療法人同仁会(社団)

同仁会クリニック

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30
TEL 075-691-7786(代)

医療法人同仁会(社団)

介護老人保健施設 マムクオーレ

〒601-6326 京都市南区古物院東落合町40-3
TEL 075-691-7755(代)

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院

訪問リハビリテーション

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町10
TEL 075-694-6844(代)

居宅介護支援マムステーション

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町38マム・スクエア内2階
TEL 075-694-6999(代)

医療法人同仁会(社団) 同仁会クリニック(併設)

同仁会疾病予防研究所

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30
TEL 075-691-5070(代)

医療法人同仁会(社団)

介護老人保健施設 マムクオーレII

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町38
TEL 075-694-6855(代)

医療法人同仁会(社団)

ヘルパーステーション マム

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町38マム・スクエア内2階
TEL 075-694-6822(代)

医療法人同仁会(社団)

ショートステイ マム

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町10
TEL 075-691-7867(代)

京都九条病院(提携)・同仁会クリニック(併設)

メディカルフィットネスクラブ SHIN-SHIN

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30
TEL 0120-558-758